

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 25年 9月 18 日			
所属学部・研究科	文学部/人文学部 3年次 (留学開始時点)			
留学先大学	オスナブリュック大学 (国名: ドイツ)			
所属学部・学科等名	ドイツ文学語学科			
在籍身分	学部生			
留学期間	平成 24年 10月 1日 ~ 平成 25年 7月 14日			
1. 渡航について				
ビザについて	<p>ビザの種類: 学生ビザ</p> <p>ビザ申請先: Stadthaus (渡航先の役所的機能をもつ)</p> <p>取得方法, 提出書類: 留学生のためのオリエンテーションでビザの取得方法など、詳しく説明してくれた後現地のアドバイザー、学生とともに申請に行きます。パスポート、証明写真、現金 100EURO、経済能力を証明する書類 (奨学金受給証明など) が必要</p> <p>手続きに要した日数: 申請から約 1 か月ほどで受け取りに来るよう催促する手紙が各々の滞在先に届きます。</p>			
その他必要な事前手続き	<p>留学期間中の費用についての書類は日本で準備していく必要があるかと思ひます。奨学金受給証明なら英語のものを、そうでなければ経済能力を証明する書類を決められた機関でドイツ語訳してもらった書類が必要になります。詳しくは在日ドイツ大使館などのホームページを参照してもらいたいと思ひますが、一日二日で用意できる書類でないこともありますので少なくとも 2 か月前から少しずつ準備を始めた方がいいと思ひます。</p>			
出国年月日	平成 24年 9月 30日			
経路	広島空港→羽田空港→フランクフルト国際空港→ミュンスター・オスナブリュック国際空港			
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	<p>渡航前に現地のアドバイザーと何度かメールのやり取りをすることになると思ひますが、そこに第一回のオリエンテーションについての説明があります。10 月始めの平日から大体 2 週間に渡って滞先に必要な処理を行います。</p>			
帰国年月日	平成 25年 8月 21日			
経路	ミュンスター・オスナブリュック国際空港→フランクフルト国際空港→羽田空港→広島空港			
2. 留学経費について				
所要経費	総額		円	
	内訳	渡航費	約 25 万	円
		保険料	約 20 万	円
		教科書代(学費)	約 7 千	円
		宿舍費	月々約 1 万 8 千円	円
		食費	月々約 4 千円	円

		その他 (インターネット接続費) (費) (費)	月々約3千	円 円 円
3. 授業について				
2013年 冬学期	10月 1日	～	2月 2日	
2014年 夏学期	4月 1日	～	7月 12日	
年 学期	月 日	～	月 日	
年 学期	月 日	～	月 日	
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	日本語学科はありません。留学生向けのドイツ語コースはレベルごとにあるのでそのためにオリエンテーション期間中にクラス分けテストを受けます。			
単位互換希望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること			
学術面に関する後輩へのアドバイス	一般の生徒向けの授業も特に制限なく受講できます。ただし当然のことながらドイツ人学生向けのものなので流暢なドイツ語能力を求められます。語学力によつてどの自信がある方以外は始めは登録をせずに聴講という形にするのもいいかもしれません。			
4. 生活等について				
(1) 留学先の住居について				
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()			
住居の広さ	約 21 m ²	同居人の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (最大15人) <input type="checkbox"/> 無	
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input checked="" type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ()			
住居費	1ヶ月当たり 155 €(現地通貨)	約 2万円		
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()			
留学先での住居全般に関するアドバイス	大学の寮を紹介してもらった場合すべてWGになります。壁は薄い場合がほとんどだと思うので隣人に配慮することはもちろんですが逆に金曜の夜、祝日などはかなりうるさい可能性があることもある程度は覚悟しておく必要があると思います。あまり度を超えて迷惑なようであれば隣人ときちんと話をするのもいいと思います。			
(2) 医療について				
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった			
入院した場合	により 日入院			
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった			
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input checked="" type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()			
掛け金は	年間 円 補償額 死亡 円, 入院1日 円 その他 ()			
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無			

有の場合、その種類、回数、費用、受けた医療機関名		
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由：	
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	一度だけ風邪を引き、熱が出たのでタクシーを使い病院へ行きました。東京海上の電話相談口の方に手続きをお願いしたのですが現地の病院とはうまく連絡が取れていなかったようで結局診察は受けずに帰って寝ていました。 薬局の類は至る所にありますが私はドラッグストアしか利用しなかったので詳しいことは分かりません。	
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	日頃の食生活を大切にすれば体調を大きく崩すということはないかと思います。共用の台所、シャワー等も不衛生というほどではありませんが一応自分用の食器など用意し、自分で管理するとよりいいかもしれません。	
(3) 危険を感じた地域、状況		
私のいた寮は住宅街の中にあっただけで特に危険を感じたりすることはありませんでした。ただし夜は街灯が少なく、暗いですし、出歩くことはやはりお勧めしません。町の中心部の酒場なども夜はあまり近づかない方がいいかと思います。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
ドイツでは日本に比べて生活必需品の類がととても安いと感じました。学生食堂はお昼時にしか空いていませんが3ユーロも出せば美味しいものがお腹いっぱい食べられます。自炊をすればさらに安く抑えることもできます。またオスナブリュックの学生証はニーダーザクセン州のほとんどとブレーメン、ミュンスターへの電車のチケットとしても使えます。(ただし特急は除く)		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 27年 3月 (当初の卒業予定年月 平成 26年 3月)	
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input checked="" type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等		
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫		
6. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等		
書籍、サイト名	詳細 (出版社、URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
オスナブリュックには日本語学科がないぶん、ドイツ人学生との一番初めの接触が持ちづらいかもしれません。同じ寮に住んでいる学生と積極的にコミュニケーションを、自分からとっていくことが大事かと思います。		

学習の概要に関するレポート

1 学年必修の第二外国語でドイツ語をインテンシブコースで受講、2 学年から文学部ドイツ文学語学科で週 10 コマ以上のドイツ語の授業を履修、3 学年前期もほぼ同様にドイツ語を学習したが、実際にドイツに渡りドイツ語で流暢な会話ができるまでには少くない時間を要した。

オスナブリュック大学はそもそも理系寄りの大学であるため日本語学科はなく、基礎的な会話と申し訳程度の文法を学べる日本語クラスが 4 つほどあるのみであり、最低でも 2 年ドイツ語を真剣に学んだものでなければ第一段階から躓いてしまうのではないかと感じた。しかし理系大学であるため他国から比較的多くの留学生が学びに来ており、留学生同士でのコミュニケーションはとりやすいのではないと思われる。また一般のドイツ人学生向けの授業はもちろんすべてがドイツ語で行われるため、ドイツ語能力はもちろん、履修する科目の予備知識についてもあらかじめ持っているようであれば単位修得は難しいように思われる。

私は前期は週 4 回の留学生向けのドイツ語クラスに加え言語学の入門を聴講という形で受けた。留学生向けのドイツ語クラスについてはオリエンテーションの期間内にクラス分けテストが行われ、各々のレベルにあった授業を履修できる。また日本の授業とドイツ(ヨーロッパ)の授業は根本的に違っているようで、発言などは比較的自由にできる形式であった。

ドイツ語クラスでは文法についても学習するが主な内容は会話練習や時事問題についての記事を読み、クラス内での意見を交換するなど、実際に話すことに主眼を据えたものであった。その際求められるのはドイツ語能力ももちろんであるが、しかしそれは絶対のものでなく、むしろ留学生同士ということもあり、むやみに重要視しすぎない方がよい。どちらかと言えば自分の意見を持ちそれを表現するということが重要である。これは常日頃から色々な物事に興味関心さらに自分の立場を考えていないととっさにはできないことであるように思えた。

そのような能力を培う場所としては授業外での学生とのコミュニケーションがあげられる。個人的な感想であるが他国の学生は自国の政治制度や時事問題、ニュースなどに非常に興味関心を持っているように見えた。またパーティなどの場でも雑談の一環として相手の国の政治制度、時事問題、文化等について多くの質問を投げかけてくる。そのような時につたない文法や貧困な語彙であってもためらわずにゆっくりと、色々な表現、単語を用いながら相手に意図を伝えるという訓練ができた。日本で一人でいても出来る文法の練習問題ではなく、人と向き合っているからこそできる訓練が最も重要であるのが留学なのだと感じた。



大学 (もともとお城だったようです)



寮付近のバス通り

生活の概要に関するレポート

オスナブリュックはニーダーザクセン州の南に位置する、ノルトライン・ヴェストファーレン州とも近い街です。ニーダーザクセン州の中では大きな方に分類されるようですが他の有名な都市に比べるともちろん小さく、田舎な印象です。

大学都市なので学生が生活を送る上で必要なものは大抵揃います。また学生証はゼメスターチケットといって、市内のバス、他のニーダーザクセン州とミュンスターへのレギオナル・バーンを無料で利用できるものにもなっています。

住居に関してですが、私が住んでいたのは大学が提供する6つの寮のうち最も中心部から離れており、大学まではバスで20分ほどかかりました。その分家賃も一番安く、月々150€少しでした。近くにはスーパーマーケットもいくつかあり、生活をする上では特に困ったところはありませんでしたが、にぎやかな場所や交通の便が良いところを好む人であれば、入居する寮はあらかじめ吟味することをお勧めします。また私のいた寮は入居者の数も多く、ワンフロア最大15人のWGでした。ドイツ人学生が一番大きな割合を占めてはいましたが他国からの留学生の方がトータルとして多い印象でした。そのため共用の台所などにはいつも誰かしらがいるというような状況でしたので、自分からのコミュニケーションも取り易かったように思います。また新学期、クリスマス、イースターなどの行事の際にはフロアごとにパーティをするようなところもあったようです。

行事ごとなどとも少し関連してきますが、ドイツでは金曜日の夜をFeierabendといい、翌日の休日にかけて複数人でパーティをするということもよくあります。入居者は全て学生なのでそれもより顕著で、週末は夜遅くまでうるさいということもしばしばありました。郷に入っては郷に従え、ではありませんがある程度の覚悟は必要かと思えます。しかし夜中の3時を過ぎててもまだうるさいなど、度を越しているようであればきちんとした意思表示は必要かと思えます。

最後に食事に関してですが、私は自炊をしていたので食費は大変少なく抑えることが出来ました。ドイツでは食品の類が大変安く、種類も十分でした。ちなみにスーパーで売られている500g49セント程度のMilchreis用のお米は日本人が普段食べているお米に最も近いのでコンロでお米を炊く方法をあらかじめ調べておけばお米も食べられます。街の中心部には2軒ほどアジアショップもあり、もちろん割高ではありますが日本の調味料なども購入できます。大学の学生食堂はお昼時しか開いていませんが種類も豊富で安く、またドイツの中でも美味しいと評判のようなので昼食は食堂を利用するのも手だと思えます。



郊外の教会



街の中心部の酒場付近